お知らせ！

お問い合わせ：佐治地区公民館
tel 88-0228

佐治地区公民館　―退職のあいさつ―

この度、３月をもちまして公民館を退職することになりました。2年足らずの勤務となりましたが、地域の皆さんの温かさに触れることが出来、また、様々な事を学ばせて頂き深く感謝いたします。公民館事業では初めて「縄をなう」体験をしたり門松作りをしたり、または、神楽獅子に頭を噛んでもらったり(笑)。今まで経験した事のない事をたくさんさせていただきました。街暮らししか知らなかった私にとって非常に楽しくバラエティに富んだ２年でした。これからは公民館ではお会いすることは無くなってしまいますが、その辺をうろついておりますのでその時は、にっこり笑顔でよろしくお願いします。短い間で

一年足らず公民館に勤めさせていただきましたが、一身上の都合により退職させていただきます。住民の方、まちづくり協議会の皆さまには、大変お世話になりありがとうございました。
皆さまの身近なところで何か役に立ちたいと思い勤めたところですが、時間だけが経ってしまいました。やっとお顔とお名前が一致するようになったのに、とても残念です。佐治町は「佐治谷七里」のとおり、佐治川沿いに細く長いところに集落が点在し少子高齢化が進行しています。まちづくり協議会等の皆さまが、地域のために尽力されている姿を拝見しながら、貴重な体験に合わせて地域の方とふれあうことができ有意義なときを過ごしました。
現在、住民主体の仕組み作りとして「小さな拠点事業」が立上げ中ですが、「公民館事業」と上手く連携することにより、車の両輪となって進むことを期待しております。また、佐治には「五しの里」のとおり「梨、和紙、話、星、石」の宝があります。これらのポテンシャルを有機的に活用し、県内外の集客やインバウンドを含めた地域振興により、先進的なところとなりますようお祈り申し上げます。
本当に、ありがとうございました。

佐治地区公民館　主事　岡本　正德

まちづくり協議会 健康・福祉部

あいさつ運動にご協力いただいた皆様ありがとうございました。30年度も子どもたちのおはようが佐治谷に元気に響いていたことでしょう。31年度も元気にあいさつ運動を盛り上げましょう！！

平成31年度 佐治町敬老会 5月開催

75才以上の方のご長寿を祝福し、これからの健勝を祈念して敬老会を開催します。
対象となる皆様には、各集落教養部長さんよりご案内いたします。多くの方のご出席を心よりお待ちしています。

日時　5月12日（日）9：30～12：30

場所　B&G佐治海洋センター

佐治町敬老会 協力者募集

敬老会の準備をお手伝いしていただける協力者のみなさんを募集します。

❑前日準備
5月11日（土）9：00～
内容：会場設営（2時間程度）

❑当日準備
5月12日（日）9：00～
内容：お弁当の配膳、片づけ等

敬老会実行委員会事務局
佐治地区公民館 電話 88-0228

Saji Community Center
佐治地区公民館だより
2019.4.1 April Vol.130

佐治地区公民館：鳥取市佐治町加瀬木2542-1
TEL：0858-88-0228
FAX：0858-88-0219
Email：cc-saji@it.city.tottori.tottori.jp

防災！

佐治町まちづくり協議会：地域・環境部

下加瀬木集落で防災訓練実施。

3月10日（日）、雨が降る中、下加瀬木集落で防災訓練を実施しました。悪天候にもかかわらず、集落25戸のほとんどの方が参加してくださり、皆さんの意識の高さがうかがえました。講師には八頭消防署用瀬出張所から2名の方にお越しいただき、消火栓を使っての放水や、消火器での消火を体験し、女性でも扱えるように訓練しました。日赤奉仕団の方には「けんちん煮込みうどん」の炊き出しをしてもらい、非常食の調理法や器具の扱いなどの説明をしていただき、有意義な訓練となりました。東日本大震災3.11から8年が過ぎた今、日本各地で防災の意識が高まっています。佐治町は少子高齢化が益々進んでいる状況で、いつ災害が起こるか分かりません。”自分の身は自分で守る”は大事ですが、超・超高齢化社会の佐治町ではそれすらままならない状況ではないでしょうか。各集落が一致団結し、助け合いの精神を持つことが大事ですが、知識がなければ行動が1歩遅れてしまいます。日々の中で、避難場所、避難経路、備蓄の確保等再確認をしながら今一度防災について見つめてみてはいかがでしょうか。

4月の行事・会議案内

※事業に参加希望の方は地区公民館までご連絡ください。
会議については、対象となる方には随時通知でお知らせします。

佐治地区公民館
■ 敬老会実行委員会　4月26日（金）

佐治町まちづくり協議会
■ 総会　4月22日（月）

佐治地区人権・同和教育推進協議会
■ 総会　4月25日（木）

公民館 事業のお申し込みは地区公民館まで。☎ 88-0228

お知らせ＆トピックス

民俗行事 桃の節句

民俗行事第３弾は「桃の節句」。3月５日（火）、佐治歴史民俗資料館“民話の館”で小学校1.2年生を対象に桃の節句行事を行いました。講師は、さじ民話会の皆さんです。お雛様を飾り、今年は民話会の上田伸治さんが男の子のひな人形なるものも持ってきてくれ、賑やかな飾りとなりました。桃の節句の由来や昔の話などを学び、甘酒とポン菓子体験を行いました。ポン菓子は智頭町から“ポン菓子の三輪”さんに来ていただき、分かっていても「どーんっ！！」と轟音が響くと子どもも大人もびっくり大騒ぎ！楽しく賑やかな事業となりました。最後は児童らの「うれしいひな祭り」のかわいい歌声で終りました。

つなげよう！ともだちのわ！！ 119人目

（寄稿していただいた方におともだちを紹介していただくペンリレー。佐治のみなさんに参加していただくコーナーです。）

● 同集落のつながりで・・・
北尾泰志さんからの紹介

西尾（にしお）　伸一（しんいち）さん（58）　加瀬木

スミヤキストになる

30年勤めた会社を退職し仲間と産業用の炭をつくる会社を立ち上げて2年と半年になります。

何か世の中のためになることがしたいと右往左往するうち島根県の益田市で間伐材でも竹でも樹皮でも原料を選ばず大量の粉炭がつくれる「プール式炭化生成窯」と出会い衝撃を受けました。すげえ！！頭の中に電気が走った状態で飛び込んだわが炭焼き稼業ですが会社勤めでは経験することがなかった困難や苦しいことも多々あり、えらい道を選択してしまったなと思うこともたびたびです。

でも最初に窯と出会った時の　すげえ！！という気持ち、鳥肌が立ったとかゾクゾクしたとか表現のしかたは様々ですが、それは自分が持って生まれた感覚であり心の声なのだと思います。自分の心の声を信じ、この道を選んで本当に良かったと思えるよう奮闘しております。

「何とかならないか」

時々、「佐治は終わった！」「佐治は駄目だ」とかネガティブな意見を耳にすることがあります。確かに数十年前より地場産業は衰退し人口も減り空き家も増えています。その様なことを言われる方もここに生まれここで育ち、心の片隅では「何とかならないか」と思っておられるのではないでしょうか。
みんなの「何とかならないか」「何かできないか」そんな思いが、いま進めている「小さな拠点事業」です。何か施設や建物を建てるのではなく、これからも暮らしを守り地域コミュニティを維持し持続可能な地域づくりを目指そうとしています。現在、推進委員会を立ち上げて新しい地域運営組織（ＮＰＯ）の設立に向け準備をしています。
まだ、佐治には老若男女約1,900人が暮らしています。その知恵とパワーを集結して出来ることから少しずつ事業（サービス）を増やしていこうと計画していますが、最も大切なのは佐治に暮らすみんながポジティブでモチベーションを下げないことです。

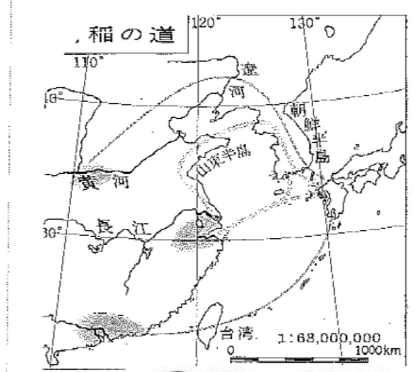
歴史小話 SAJI

歴史探究家
西尾正之氏の

【佐治歴史小話・４】稲の伝来

古代・奈良時代（７１０～）に「古事記」が編纂(へんさん)された。この中に「因幡の白兎伝説」の掲載があり、ワニが出てくる。日本にはワニなどいない。ワニが生息している最も近い所は長江(揚子江)下流であり、紀元前より稲作の大発祥地である。「因幡の白兎伝説」は日本に稲作が中国南部・楊子江より伝わったことを示唆(しさ)する。と私は思う。異論があるだろうが・・・。

ところが、この稲・・・日本に伝わったが当初、耕作適地がなかったのである。
難しいことを云う気はないが、稲というのは「著しく水を好む陸草(おかぐさ)」と云われる。だから、水なしでは栽培できない陸草(おかぐさ)である。
現在の日本の水田の大半は平野部にある。しかし平野部は「水田にしょう」と思う所から２～３M下を川の水が流れている。しかも氾濫が頻発する。この水をたとえ２～３Mでも上に挙げようとすれば、大規模な灌漑(かんがい)工事が必要となる。資金も技術・知識もない、古代の個人や郷内(ごうない)の農民が結束しても出来ることではない。日本の川というのは外国人が見れば「滝の様に見える」と云う。私は過去に旧ソ連・ハバロフスクの大河（アムール河・中国名＝黒竜江）を船で横断したことがある。この大河・・向こう岸が見えない！！水が流れていない、水が止まっている湖の様だった！！水面と水田耕作地が同じ高さ、この状態が稲作の適地となる。



【文責＝熊野会・副会長、西尾正之】